

# 「66将棋」大会開催

## 「聖地」目指し事業推進

天童商工会議所（山形県）は1月28日、「第2回66（ろくろく）将棋大会」を同所で開催した。「66将棋」とは、通常の将棋盤より少ない縦6横6マス、計36マスの盤上で対局する将棋。「手軽に楽しめる新しい将棋を」と、同所が尚綱（しょうけい）学院大学松田道雄特任教授と開発し、2018年7月に披露を兼ねて第1回大会を開催した。2回目の今回は、地元商店街、事業者、高校などから12チーム36人が参加し、白熱した対局を繰り広げた。



将棋66の熱する大会

66将棋は、天童市「ロジェクトの一環として開発されたもの。同プロジェクトでは、天童を「将棋の聖地」にするべく、新たな観光ルートや土産品の開発などを進めており、66将棋のほか、これまでにまち歩きアプリ「YORIP（ヨリッ）」や、勝負めしの「将棋（こまカレー）」、将棋駒型のものなどにアイスが入った「将棋愛す（こまあいす）」など



将棋駒をかたどった板そば皿

どを開催している。大会当日は、対局後に勝負めし試食会を開催。「将棋カレー」や「将棋愛す」、初披露の将棋駒型こんにゃく「玉コンならぬ駒こん」が登場し、参加者は勝負とともに天童の新名物を楽しんだ。大会は、今後も年2回程度開催を続け、全国へ普及を図っていく。

また、同所は森林資源を有効活用する県の「やまがた森林（モリ）プロジェクトでは、天童を「将棋の聖地」にするべく、新たな観光ルートや土産品の開発などを進めており、66将棋のほか、これまでにまち歩きアプリ「YORIP（ヨリッ）」や、勝負めしの「将棋（こまカレー）」、将棋駒型のものなどにアイスが入った「将棋愛す（こまあいす）」など

現している。この皿は、縦60センチ、横45センチ（底辺）で、そば4人前が入る特大サイズ。樹齢70年の金山杉の正目を生かし、将棋駒の形を忠実に再現している。